

雷による中断・中止の判断基準について

一般社団法人 奈良県サッカー協会

(1) 中止、中断の判断基準

- ① **雷ナウキャスト（気象庁）** で、開催場所の **約 15km 圏内に落雷（雲放電を含む）** か **雷活動度 2（オレンジ色）以上**を確認した場合は活動を中断もしくは中止する。
※ 米国では、10 マイル（約 16km）を基準としています。
- ② ウェブサイトにとらわれることなく、急に雷雲が発達することもあり、**危険な兆候が確認されたら**躊躇なく活動を中断もしくは中止する。
- ③ 活動を再開する場合は、**雷ナウキャスト（気象庁）** で情報を確認し、雷活動（雷鳴、雷光等）が止んでから **30 分以上経過し活動を再開すること。**

(2) 雷ナウキャストの準備

- ① QR コード
- ② アイコンをクリック

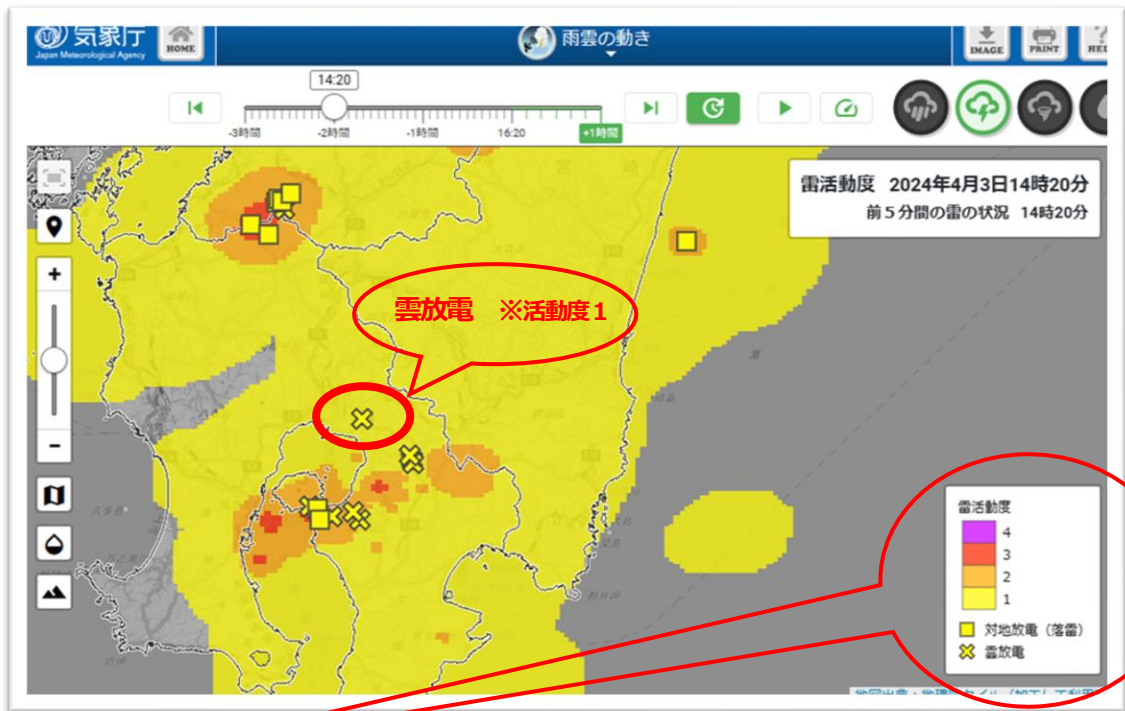


(3) 雷ナウキャストについて

雷の激しさや雷の可能性を 1km 格子単位で解析し、その 1 時間後（10 分～60 分先）までの予測を行うもので、10 分毎に更新して提供されます。
雷の解析は、雷監視システムによる雷放電の検知及びレーダー観測などを基にして**活動度 1～4**で表します。予測については、雷雲の移動方向に移動させるとともに、雷雲の放電盛衰の傾向も考慮しています。なお、**急に雷雲が発達することもあり、活動度の出ていない地域でも天気**の急変には注意する必要があります。

(4) 雷ナウキャストで示す活動度について

被害を防ぐために取るべき行動を下表にまとめました。
雷の激しさを表すために活動度 1～4 に分けていますが、**活動度 2 以上〈オレンジ色〉では落雷の危険が迫っている状況ですので、活動度 2～4 では直ちに身の安全確保の行動をとる必要があります。**
特に、活動度 2 は雷が発生していてもまだ活発に感じない状況か、落雷が発生する直前という段階なので気を許しがちとなりますが、この段階で行動をとることが大切です。
なお、安全確保に時間を要する場合は、活動度 1 の段階から行動することが被害の防止につながります。



活動度	雷の状況		屋外において 想定される対応	屋内や工場などで 想定される対応
4	激しい雷	落雷が多数発生している。	●屋外にいる人は落雷の危険があるため、建物や車の中へ移動するなど、安全確保に努める。	●パソコンなど家電製品の電源を切り、コンセントを抜く。
3	やや激しい雷	落雷がある。		●工場の生産ラインなどリスクの大きい場所では、作業の中止や自家発電への切替などの対応をとる。
2	雷あり	電光が見えたり雷鳴が聞こえる。落雷の可能性が高くなっている。	●屋内にいる人は外出を控える。	
1	雷可能性あり	現在、雷は発生していないが、今後落雷の可能性はある。	今後の雷ナウキャストや空の状況に注意する。	

※ 活動度1～4になっていない地域でも、積乱雲が急速に発達して落雷する場合がある。

■ 対地放電（落雷）⇒⇒ 雲と地上の間で発生する放電

✕ 雲放電 ⇒⇒ 雲中などで発生する放電

※ 雲放電が発生している＝落雷が発生する可能性も十分にある。

(5) チェックリストについて

- ① 気象情報提供先にて、**雷注意報**の確認
- ② 雷ナウキャストにて**雷活動度**の確認
- ③ **避難場所、避難経路**の確認
- ④ **AED**の有無について確認
- ⑤ 実施可否**判断者の明確化**

参考) 雷ナウキャストとは | 気象庁

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/toppuu/thunder2-1.html> 2025-4-16